

検討結果報告書（案）における中間まとめからの主な変更点

頁	検討結果報告書案	頁	中間まとめ	備考
表紙	青森県立高等学校魅力づくり検討会議における検討結果について (検討結果報告書(案))	表紙	青森県立高等学校魅力づくり検討会議におけるこれまでの検討状況 (中間まとめ)	表題変更
1	はじめに【本文省略】	表紙裏	中間まとめにあたって【本文省略】	全文変更
第1	魅力ある高等学校づくりに向けた基本的な考え方	第1	魅力ある高等学校づくりに向けた基本的な考え方	
2	<p>1 高等学校教育を取り巻く現状</p> <p>○ 我が国においては、人口減少やグローバル化の進展、Society5.0時代の到来等、社会の急激な変化に伴い、将来の予測が困難な時代となっており、教育の果たす役割がますます重要となっている。</p> <p>○ また、ほぼ全ての中学生が高等学校に進学しており、<u>高等学校においては、生徒の能力、適性、興味・関心、進路志望等が一層多様化しているとともに、特別な教育的支援を必要とする生徒や義務教育段階における不登校経験を有する生徒、外国につながるのある生徒等、様々な事情を抱えた生徒が在籍しており、実態も多様化している。</u></p> <p>○ このような中、<u>地理的状况や学校・課程・学科にかかわらず、生徒の多様なニーズに対応した柔軟で質の高い学びを実現し、全ての生徒の可能性を最大限に引き出す「多様性への対応」を図りつつ、全ての生徒が社会で生きていくために必要となる力を身に付けられるよう「共通性の確保」を併せて進めることが高等学校に求められている。</u></p> <p>○ <u>「多様性への対応」と「共通性の確保」を果たしていくことにより、高等学校教育の一層の質の確保・向上、各校のスクール・ミッション³やスクール・ポリシー⁴を踏まえた特色ある教育活動の展開など、「生徒を主語にした」高等学校教育を実現することが期待される。</u></p>	1	<p>1 高等学校教育を取り巻く現状</p> <p>○ 我が国においては、人口減少やグローバル化の進展、Society5.0時代の到来等、社会の急速な変化に伴い、将来の予測が困難な時代となっており、教育の果たす役割がますます重要となっている。</p> <p>○ また、ほぼ全ての中学生が高等学校に進学しており、生徒の能力、適性、興味・関心、進路志望等が一層多様化しているとともに、<u>高等学校には、特別な支援を必要とする生徒や義務教育段階における不登校経験を有する生徒、外国につながるのある生徒等、様々な事情を抱えた生徒が在籍しており、高等学校の実態も多様化している。</u></p> <p>○ このような中、<u>高等学校においては、地理的状况や各学校・課程・学科の枠にかかわらず、生徒の多様なニーズに対応した柔軟で質の高い学びを実現し、全ての生徒の可能性を最大限に引き出す「多様性への対応」を図りつつ、高等学校教育の質の確保・向上に向けて、全ての生徒が社会で生きていくために必要となる力を身に付けられるよう「共通性の確保」を併せて進めることが求められている。</u></p> <p>○ <u>これらのことを踏まえ、変化し続ける社会においても生徒が夢や志の実現に向けて必要となる力を身に付け、未来を切り拓き、豊かな人生を送るとともに持続可能な社会の創り手となることができよう、魅力ある県立高等学校の在り方について、中・長期的な展望に立って検討するものである。</u></p>	<p>文言整理</p> <p>文言整理</p> <p>地区部会の意見を踏まえ修正</p> <p>文言整理</p> <p>「はじめに」へ記載したことに伴う内容の変更</p>
2	<p>³ <u>スクール・ミッション：各校に求められる役割や目指すべき学校像等を、県教育委員会において明確化したもの。</u></p> <p>⁴ <u>スクール・ポリシー：スクール・ミッションに基づき、一貫性を持って教育活動を進めるため、各校において、育成すべき資質・能力、教育課程の編成及び実施、入学者の受入れに関する具体的な方針についてまとめたもの。</u></p>	1		注釈を追加

頁	検討結果報告書案	頁	中間まとめ	備考
3	<p>2 「魅力ある高等学校づくり」の視点</p> <p>○ これまでの高等学校教育改革の成果や課題のほか、本県及び各地域の実情等を踏まえるとともに、これまでの常識にとらわれない新たな視点も取り入れながら、将来の高等学校の在り方を見据えた「<u>青森県ならではの高等学校教育改革</u>」を進めていく必要がある。</p> <p>○ 生徒がこれからの時代に求められる力を身に付け、夢や志の実現に向けて主体的に取り組んでいけるよう、学校、地域、保護者、企業、県教育委員会等の県全体が一体となり、<u>きめ細かに支援することができる環境づくりを進める必要がある</u>。こうした環境づくりに当たっては、<u>教員がゆとりを持ち、生き生きと日々の教育活動に取り組むことができるような配慮が必要である</u>。</p>	2	<p>2 「魅力ある高等学校づくり」の視点</p> <p>○ <u>急激に変化する社会において、これまでの高等学校教育改革の成果や課題のほか、将来必要となる力や本県及び各地域の実情等を踏まえるとともに、これまでの常識にとらわれない新たな視点も取り入れながら、将来の高等学校の在り方を見据えた本県ならではの高等学校教育改革を進めていく必要がある</u>。</p> <p>○ 生徒がこれからの時代に求められる力を身に付け、夢や志の実現に向けて主体的に取り組んでいけるよう、学校、地域、保護者、企業、県教育委員会等の県全体が一体となって、<u>きめ細かな支援をしていくことができる環境づくりを進める必要がある</u>。こうした環境づくりに当たっては、<u>教職員がゆとりを持って、生き生きと日々の教育活動に取り組むことができるよう配慮が必要である</u>。</p>	<p>文言整理</p> <p>地区部会の意見を踏まえ修正</p> <p>文言整理</p>
3	<p>3 高等学校教育の方向性</p> <p>(1) これからの時代に求められる力の育成</p> <p>○ 知・徳・体の調和のとれた生きる力や主体性、コミュニケーション能力、自己肯定感、多様性を尊重する心、郷土を愛する心は、時代が変化する中であっても、引き続き、全ての生徒が身に付ける必要がある。</p> <p>○ このような力に加え、<u>主体的に未来を切り拓く力や課題発見・解決する力、大志を抱き世界へ挑戦する心、地域を支える心等</u>、生徒の夢や志に応じた力の育成が必要である。</p>	2	<p>3 高等学校教育の方向性</p> <p>(1) これからの時代に求められる力の育成</p> <p>○ 知・徳・体の調和のとれた生きる力や主体性、コミュニケーション能力、<u>さらには、自己肯定感、多様性を尊重する心、地域・郷土を愛する心</u>は、時代が変化する中であっても、引き続き、全ての生徒が身に付ける必要がある。</p> <p>○ このような力に加え、<u>課題発見・解決する力や地域を支える心、大志を抱き世界へ挑戦する心、主体的に未来を切り拓く力等</u>、生徒の夢や志に応じた力の育成が必要である。</p>	<p>文言整理</p> <p>地区部会の意見を踏まえ、順番を変更</p>
3	<p>(2) これからの時代に求められる人財の育成</p> <p>○ 本県や各地域の強み、各校の特色を生かした教育活動を推進し、これからの時代に求められる力を身に付けた、「<u>青森県や地域の発展に貢献できる人財</u>」「<u>社会を牽引できる人財</u>」「<u>職業の多様化に対応できる人財</u>」等を育成する必要がある。</p>	2	<p>(2) これからの時代に求められる人財の育成</p> <p>○ 本県や各地域の強み、各校の特色を生かした教育活動を推進し、これからの時代に求められる力を身に付けた、「<u>青森県や地域の発展に貢献できる人財</u>」「<u>イノベーション³を創出する志や創造性を持った社会を牽引できる人財</u>」「<u>職業の多様化に対応できる人財</u>」等を育成する必要がある。</p>	<p>文言整理</p>
3		2	<p>³ <u>イノベーション：「イノベーション25（平成19年6月1日 閣議決定）」では、イノベーションとは、技術の革新にとどまらず、これまでとは全く違った新たな考え方、仕組みを取り入れて、新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすことと定義している。</u></p>	<p>削除</p>

頁	検討結果報告書案	頁	中間まとめ	備考
4	<p>(3) 高等学校に求められること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生まれ育った環境にかかわらず、一定の水準を満たした教育や、誰一人取り残さないきめ細かな教育を提供することで、生徒のウェルビーイングの実現を目指す必要がある。 ○ 各校の特色を生かすとともに、高等学校間や学科間の連携のほか、小・中学校、特別支援学校、大学、地域、関係機関等の多様な主体と連携・協働し、授業や特別活動、部活動、地域活動等の教育活動全体で更なる魅力化を図る必要がある。 (略) ○ 学校・学科の魅力づくりに向け、各校の特色や役割に応じた教育制度の効果的な活用が必要である。 	3	<p>(3) 高等学校に求められること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生まれ育った環境にかかわらず、<u>生徒に一定の水準を満たした教育や、誰一人取り残さないきめ細かな教育を提供することで、生徒のウェルビーイング⁴の実現を目指す必要がある。</u> ○ 各校の特色を生かすとともに、高等学校間や学科間の連携のほか、小・中学校、特別支援学校、大学、地域、関係機関等の多様な主体等と連携・協働し、授業や特別活動、部活動、地域活動等の教育活動全体で更なる魅力化を図る必要がある。 (略) ○ 学校・学科の魅力づくりに向け、各校の特色や役割に応じた教育制度等の効果的な活用が必要である。 	文言整理
4		3	⁴ <u>ウェルビーイング：身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むもの。また、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念。</u>	削除 (「はじめに」で記載)
第2 学校・学科の充実の方向性		第2 学校・学科の充実の方向性		
5	<p>1 これからの時代に求められる高等学校の魅力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実や、誰一人取り残さないきめ細かな教育につなげていくため、特に、各校の特色を生かした取組の推進、ICTの活用、特別な教育的支援を必要とする生徒への対応等、各校における教育活動の更なる充実を図る必要がある。 ○ また、高等学校間・学科間、小・中学校、特別支援学校、大学、地域、関係機関等、多様な主体が連携の目的を明確にし、各主体の特色と強みを生かした連携を更に進めることにより、各校における教育活動の深化を図る必要がある。 	4	<p>1 これからの時代に求められる高等学校の魅力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実や、誰一人取り残さないきめ細かな教育につなげていくため、特に、各校の特色を生かした取組、ICTの活用、特別な支援を必要とする生徒等への対応等、各校における教育活動の更なる充実を図る必要がある。 ○ また、高等学校間・学科間、小・中学校、特別支援学校、大学、地域、関係機関等、多様な主体等が連携の目的を明確にし、各主体の特色と強みを生かした連携を更に進めることにより、各校における教育活動の深化を図る必要がある。 	文言整理 地区部会の意見を踏まえ修正
5	<p>(1) 教育活動の更なる充実</p> <p>① 各校の特色を生かした取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ また、国の動向や他県の事例等を参考にしながら、本県で既に実施されている特色ある取組の発展や、これまでの常識にとらわれない新たな取組の創出等、「<u>青森県ならではの取組</u>」を推進する必要がある。 	4	<p>(1) 教育活動の更なる充実</p> <p>① 各校の特色を生かした取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ また、国の動向や他県の事例等を参考にしながら、本県や他県で既に実施されている特色ある取組の発展や、これまでの常識にとらわれない新たな取組の創出等、<u>本県ならではの取組</u>を推進する必要がある。 	文言整理 地区部会の意見を踏まえ修正
5		5	<p>⁷ <u>スクール・ミッション：各校に求められる役割や目指すべき学校像等を、県教育委員会において明確化したもの。</u></p> <p>⁸ <u>スクール・ポリシー：スクール・ミッションに基づき、一貫性を持って教育活動を進めるため、各校において、育成すべき資質・能力、教育課程の編成及び実施、入学者の受入れに関する具体的な方針についてまとめたもの。</u></p>	削除 (「第1」で記載)

頁	検討結果報告書案	頁	中間まとめ	備考
6	<p>② ICTの活用による教育活動の充実</p> <p>○ これからの時代に求められる力を身に付けるための学びを生徒に提供することができるよう、ICTの活用等による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が求められている。</p> <p>○ このため、ICT環境の更なる充実を図り、ICTを活用した国内外の高等学校や大学、関係機関等との連携・協働体制を構築・強化した上で、対面指導と遠隔・オンライン教育を最適に組み合わせることが重要である。</p>	5	<p>② ICTの活用による教育活動の充実</p> <p>○ これからの時代に求められる力を身に付けるための学びを生徒に提供することができるよう、<u>課程等にかかわらず</u>、ICTの活用等による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が求められている。</p> <p>○ このため、ICT環境の更なる充実を図り、ICTを活用した<u>他校等との連携・協働体制</u>を構築・強化した上で、対面指導と遠隔・オンライン教育を最適に組み合わせることが重要である。</p>	<p>文言整理</p> <p>地区部会の意見を踏まえ修正</p>
6	<p>③ 特別な教育的支援を必要とする生徒への教育の充実</p> <p>○ <u>特別な教育的支援を必要とする生徒は増加傾向</u>にあり、全ての高等学校において特別支援教育の視点を持った指導や個に応じた指導が求められる。</p> <p>○ このような状況の中、生徒一人一人にきめ細かな指導を行うため、各校における校内研修や、特別支援学校と連携した教員研修、特別支援学校との人事交流等、教員の資質向上や指導体制の更なる充実を図る必要がある。</p>	5	<p>③ 特別な支援を必要とする生徒への教育の充実</p> <p>○ <u>特別な支援を必要とする生徒は増加傾向</u>にあり、<u>課程等にかかわらず</u>、全ての高等学校において特別支援教育の視点を持った指導や個に応じた指導が求められる。</p> <p>○ このような状況の中、生徒一人一人にきめ細かな指導を行うため、各校における校内研修や、特別支援学校と連携した教員研修、特別支援学校との人事交流等、教員の資質向上と指導体制の更なる充実を図る必要がある。</p>	<p>地区部会の意見を踏まえ修正</p> <p>文言整理</p>
7	<p>(2) 多様な主体との連携・協働</p> <p>① 高等学校間・学科間の連携</p> <p>○ 県全体の教育の質の確保・向上のため、重点校・拠点校が中核となって各校と連携し、多様な他者との交流による生徒の成長や、教員の指導方法等の共有による教員の資質向上につながるなど、一定の成果が上がっている一方で、<u>学校間のニーズが一致する取組が難しい</u>などの課題もある。</p>	6	<p>(2) 多様な主体との連携・協働</p> <p>① 高等学校間・学科間の連携</p> <p>○ 県全体の教育の質の確保・向上のため、重点校・拠点校が中核となって各校と連携し、多様な他者との交流による生徒の成長や、教員の指導方法等の共有による教員の資質向上につながるなど、一定の成果が上がっている一方で、<u>学校間でニーズが一致する取組が難しい</u>などといった課題もある。</p>	<p>文言整理</p>
7	<p>② 異なる校種間の連携</p> <p>○ 小・中学校との合同行事や学習指導の取組等の異年齢交流は、高校生の自己有用感や郷土愛の醸成につながるほか、小・中学生にとっても教育的効果が高いなど、高校生と小・中学生の双方に好影響を与えている一方で、<u>連携の主体や目的が不明確である場合、十分な効果が得られない</u>という課題もある。</p> <p>○ このため、大学等からの<u>遠隔・オンライン教育</u>の実施や、高等学校以外での学修を単位認定できるようにする仕組みづくり等、大学等との連携を更に推進する必要がある。</p> <p>○ また、大学等との連携により、高等学校段階から高いレベルの教育・研究等に触れることができる<u>という効果がある</u>一方で、<u>移動の負担が生じることや進学後の単位としての認定が難しい</u>などの課題もあり、<u>実用的で実質的な連携による更なる取組の充実が求められる</u>。</p>	6	<p>② 異なる校種間の連携</p> <p>○ 小・中学校との合同行事や学習指導の取組等の異年齢交流は、高校生の自己有用感や郷土愛の醸成につながるほか、小・中学生にとっても教育的効果が高いなど、高校生と小・中学生の双方に好影響を与えている一方で、<u>連携の主体や目的が不明確である場合、十分な効果が得られない</u>といった課題もある。</p> <p>○ このため、大学等からの<u>遠隔教育</u>の実施や、高等学校以外での学修を単位認定できるようにする仕組みづくり等、大学等との連携を更に推進する必要がある。</p> <p>○ また、大学等との連携により、高等学校段階から高いレベルの教育・研究等に触れることができる<u>といった効果は</u>ある一方で、<u>移動の負担が生じることや進学後の単位としての認定が難しい</u>などといった課題もあり、<u>実用的で実質的な連携による更なる取組の充実が求められる</u>。</p>	<p>文言整理</p>

頁	検討結果報告書案	頁	中間まとめ	備考
8	<p>③ 地域や関係機関等との連携</p> <p>○ より良い学校教育を通してより良い社会を創るという理念を学校と社会が共有し、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働により「社会に開かれた教育課程」を実現していくことが求められている。</p> <p>○ また、地域や関係機関等との連携により、<u>自己の在り方・生き方</u>のイメージを持たせることで将来に向けた学びにつながるとともに、郷土愛の醸成が期待できる。</p> <p>(略)</p> <p>○ なお、連携・協働の推進に当たっては、地域や関係機関等との連携を担うコーディネーターを配置するとともに、<u>研修等を通して</u>コーディネート機能の充実を図る必要がある。</p>	7	<p>③ 地域や関係機関等との連携</p> <p>○ より良い学校教育を通してより良い社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働により「社会に開かれた教育課程」を実現していくことが求められている。</p> <p>○ また、地域や関係機関等との連携により、<u>自らの生き方・在り方</u>のイメージを持たせることで将来に向けた学びにつながるとともに、郷土愛の醸成が期待できる。</p> <p>(略)</p> <p>○ なお、連携・協働の推進に当たっては、地域や関係機関等との連携を担うコーディネーターを配置するとともに、<u>養成・研修等を通して</u>、コーディネート機能の充実を図る必要がある。</p>	文言整理
9	<p>2 これからの時代に求められる力を育む学科等の魅力づくり</p> <p>○ <u>生徒の進路志望の多様化への対応</u>とともに、グローバル化や情報化等、<u>高等学校教育</u>を取り巻く環境の変化や本県の産業構造の変化等への対応が求められており、常に知識・技術を刷新し続けることができるよう、その土台となる基礎的・基本的な知識・技術の習得が必要である。</p> <p>○ また、探究的な学びや学科横断的な学び、<u>STEAM教育</u>等、新たな時代を見据えた学びを提供するため、<u>中学生や保護者のニーズ</u>等を踏まえながら、生徒数の減少も見据え、柔軟な教育課程の編成やコースの設置を含めた各学科等の更なる充実のほか、<u>改編・新設</u>について検討する必要がある。</p> <p>○ さらに、生徒の学習意欲の向上につなげていくため、各学科等の魅力向上と情報発信、知識・技術の高度化に対応した教員の資質向上、本県産業の方向性を踏まえた地域や企業等との連携が必要である。</p>	8	<p>2 これからの時代に求められる力を育む学科等の魅力づくり</p> <p>○ <u>進路志望の多様化への対応</u>とともに、<u>社会の</u>グローバル化や情報化等、<u>高等学校</u>を取り巻く環境の変化や本県の産業構造の変化等への対応が求められており、常に知識・技術を刷新し続けるため、その土台となる基礎的・基本的な知識・技術の習得が必要である。</p> <p>○ また、探究的な学びや<u>STEAM教育</u>、<u>キャリア教育</u>等、新たな時代を見据えた学びを提供するため、<u>社会の変化や中学生・保護者のニーズ</u>等を踏まえながら、生徒数の減少も見据え、柔軟な教育課程の編成やコースの設置も含めた各学科等の更なる充実のほか、<u>改編・新設</u>について検討する必要がある。</p> <p>○ さらに、<u>各学科等において生徒の学習意欲の向上につなげていくため</u>、各学科等の魅力向上と情報発信、<u>職業に必要とされる知識・技術</u>の高度化に対応した教員の資質向上、本県産業の方向性を踏まえた地域・企業等との連携等が必要である。</p>	<p>文言整理</p> <p>地区部会の意見を踏まえ修正</p>
9	<p>(1) 全日制課程</p> <p>① 普通科等</p> <p>ア 普通科</p> <p>○ <u>大学等への進学から就職まで幅広い進路志望</u>に対応している一方で、教育内容が画一的・均質的になりやすい。</p> <p>(略)</p> <p>○ 特色化や魅力化に当たっては、コースの設置や外部人材の活用、地域や関係機関等との連携により教育活動の充実を図るとともに、普通科改革を踏まえた新たな学科の設置についても検討する必要がある。</p> <p>○ また、基礎・基本の定着や日々の授業の充実を図るとともに、高度な学びや多様な選択科目の設定等、特色ある教育課程を編成する必要がある。</p>	8	<p>(1) 全日制課程</p> <p>① 普通科等</p> <p>ア 普通科</p> <p>○ 普通科では、<u>選抜性の高い大学等を含む進学から就職まで幅広い進路志望</u>に対応している一方で、教育内容が画一的・均質的になりやすいといった現状もある。</p> <p>(略)</p> <p>○ 特色化や魅力化に当たっては、コースの設置や外部人材の活用、地域や関係機関等との連携により教育活動の充実を図るとともに、普通科改革を踏まえた新たな学科の設置についても検討する必要がある。</p> <p>また、基礎・基本の定着や日々の授業の充実を図るとともに、高度な学びや多様な選択科目の設定等、特色ある教育課程を編成する必要がある。</p>	文言整理

頁	検討結果報告書案	頁	中間まとめ	備考
10	<p>ウ グローバル探究科</p> <p>○ これまで外国語科においては、英語とロシア語の学びや国際交流を通して、語学力やコミュニケーション能力の向上が図られてきたが、語学力のみならず、更なるグローバル化に対応できる国際的素養を身に付けたグローバル人財を育成するため、令和6年度にグローバル探究科に改編された。</p>	9	<p>ウ グローバル探究科</p> <p>○ これまで外国語科においては、英語とロシア語の学びや国際交流を通して、語学力やコミュニケーション能力の向上が図られてきたが、語学力のみならず、更なる社会のグローバル化に対応できる国際的素養を身に付けたグローバル人財を育成するため、令和6年度にグローバル探究科に改編された。</p>	文言整理
10	<p>エ スポーツ科学科</p> <p>○ スポーツに関する専門科目や実習、多様な他者とのスポーツを通じた交流を通して、専門性を高めるだけでなく、豊かな心や自律心、協調性等を育成し、大学進学をはじめ、スポーツトレーナーや医療・福祉関係、栄養関係等、スポーツ関連の様々な方面に人財を輩出している一方で、より幅広い進路志望への対応が求められる。</p> <p>○ このため、<u>スポーツが社会の活性化や共生社会の実現に寄与していることを踏まえ</u>、スポーツを「する」だけでなく、「みる、支える、知る」といった多様なスポーツとの関わり方の視点に立った学びが必要である。</p> <p>○ また、柔軟な教育課程の編成や外部人材の活用等も必要である。</p>	9	<p>エ スポーツ科学科</p> <p>○ スポーツに関する専門科目や実習、多様な他者とのスポーツを通じた交流を通して、専門性を高めるだけでなく、豊かな心や自律心、協調性等を育成し、大学進学をはじめ、スポーツトレーナーや医療・福祉関係、栄養関係等、スポーツ関連の様々な方面に人財を輩出している一方で、より幅広い進路志望に対応する必要がある。</p> <p>○ このため、<u>スポーツが社会の活性化や共生社会の実現に寄与していることも踏まえ</u>、スポーツを「する」だけでなく、「みる、支える、知る」といった多様なスポーツとの関わり方の視点に立った学びが必要である。</p> <p>○ また、<u>スポーツに関わる多様な人財を育成するとともに、幅広い進路志望に対応するため、柔軟な教育課程の編成や外部人材の活用等も必要である。</u></p>	文言整理
10	<p>オ 表現科</p> <p>○ 表現や演劇、舞台芸術等に関する専門科目や、外部人材を活用したワークショップ等の表現に関する多様な学びを通して、コミュニケーション能力や表現力を育成しており、表現や演劇等に関する分野だけでなく、幅広い分野の大学等へ進学するなど、多様な人財を輩出している一方で、表現力が様々な分野で必要とされる力であることが中学生や保護者等に十分に理解されていない。</p> <p>○ このため、表現について幅広く学ぶ機会を増やしなが、生徒の進路志望の実現につなげるとともに、積極的に情報発信を行う必要がある。</p>	9	<p>オ 表現科</p> <p>○ 表現や演劇、舞台芸術等に関する専門科目や、外部人材を活用したワークショップ等の表現に関する多様な学びを通して、コミュニケーション能力や表現力を育成しており、表現や演劇等に関する分野だけでなく、幅広い分野の大学等へ進学するなど、多様な人財を輩出している一方で、表現力が様々な分野で必要とされる力であることが中学生や保護者等に十分に理解されていない<u>といった現状もある。</u></p> <p>○ このため、表現について幅広く学ぶ機会を増やしなが、生徒の進路志望の実現につなげるとともに、積極的に情報発信を行う必要がある。</p>	文言整理
11	<p>② 職業教育を主とする専門学科</p> <p>ア 農業科</p> <p>○ このため、<u>外部人材</u>や関係機関等の地域の教育資源の活用等により、農業の幅広い分野の学びを展開するとともに、高等学校間・学科間の連携や関係機関等との連携を図りながら、スマート農業等、農業を取り巻く環境の変化に対応した学びを推進する必要がある。</p>	10	<p>② 職業教育を主とする専門学科</p> <p>ア 農業科</p> <p>○ このため、<u>地域人材</u>や関係機関等の地域の教育資源の活用等により、農業の幅広い分野の学びを展開するとともに、高等学校間・学科間の連携や関係機関等との連携を図りながら、スマート農業等、農業を取り巻く環境の変化に対応した学びを推進する必要がある。</p>	地区部会の意見を踏まえ修正

頁	検討結果報告書案	頁	中間まとめ	備考
11	<p>ウ 商業科</p> <p>○ 商業の学習分野であるマーケティング、マネジメント、会計、ビジネス情報の4分野に関する学習や、まちづくりをテーマとした研究等の様々な実践や体験を通して、課題発見・解決する力やチャレンジする力等の実践力を育成している一方で、商業科の学習内容が中学生や保護者等に十分に理解されていない。</p> <p>○ このような状況の中、経済のグローバル化やICTの急速な進展等も踏まえ、商業の4分野に関する科目を幅広く開設するとともに、地域や企業等と連携しながら、グローバル社会における国際ビジネスの進展等、社会の変化を見据えた学びを推進するほか、<u>積極的に情報発信を行う必要がある。</u></p>	10	<p>ウ 商業科</p> <p>○ 商業の学習分野であるマーケティング、マネジメント、会計、ビジネス情報の4分野に関する学習や、まちづくりをテーマとした研究等の様々な実践や体験を通して、課題発見・解決する力やチャレンジする力等の実践力を育成している一方で、商業科の学習内容が中学生や保護者等に十分に理解されていない<u>といった現状もある。</u></p> <p>○ このような状況の中、経済のグローバル化やICTの急速な進展等も踏まえ、商業の4分野に関する科目を幅広く開設するとともに、地域や企業等と連携しながら、グローバル社会における国際ビジネスの進展等、社会の変化を見据えた学びを推進する必要があるほか、<u>商業科の更なる魅力の発信が必要である。</u></p>	文言整理
12	<p>オ 家庭科</p> <p>○ このような状況の中、少子高齢化やライフスタイルの多様化等も踏まえ、外部人材や<u>関係機関等の地域の教育資源</u>を活用しながら、食や福祉、服飾等の専門分野の特色ある学びを提供するとともに、他学科との連携の推進により学びの深化を図る必要がある。</p>	11	<p>オ 家庭科</p> <p>○ このような状況の中、少子高齢化やライフスタイルの多様化等も踏まえ、外部人材や<u>地域資源</u>を活用しながら、食や福祉、服飾等の専門分野の特色ある学びを提供するとともに、他学科との連携の推進により学びの深化を図る必要がある。</p>	文言整理
12	<p>カ 看護科</p> <p>○ このような状況の中、医療を取り巻く環境の変化も踏まえ、大学や<u>関係機関等</u>と連携しながら、少子高齢化や医療的ケア児の増加等の社会の変化に対応した学びを提供するとともに、引き続き、専攻科と一体となった5年一貫教育による看護師養成に取り組む必要がある。</p>	11	<p>カ 看護科</p> <p>○ このような状況の中、医療を取り巻く環境の変化も踏まえ、大学や<u>外部人材</u>と連携しながら、少子高齢化や医療的ケア児の増加等の社会の変化に対応した学びを提供するとともに、引き続き、専攻科と一体となった5年一貫教育による看護師養成に取り組む必要がある。</p>	文言整理
13	<p>③ 総合学科</p> <p>○ 総合学科は、普通科等及び職業教育を主とする専門学科に並ぶ選択肢として、共通教科から専門教科まで幅広く科目を開設し、生徒の能力や<u>適性・興味・関心</u>等に応じた教育活動を推進し、多様な進路志望に対応している。</p> <p>(略)</p> <p>○ これらのことから、中学校や大学、地域との連携を更に強化しながら、外部人材や<u>関係機関等の地域の教育資源</u>を積極的に活用し、多様な分野の学びを提供するとともに、本県の専門学科では学べない特色ある科目や系列を超えた選択科目を設定するなど、社会の変化や生徒のニーズに対応した魅力ある教育課程を編成し、総合学科としての特色を明確にする必要がある。</p>	12	<p>③ 総合学科</p> <p>○ 総合学科は、普通科等及び職業教育を主とする専門学科に並ぶ選択肢として、共通教科から専門教科まで幅広く科目を開設し、生徒の能力・<u>適性や興味・関心</u>等に応じた教育活動を推進し、多様な進路志望に対応している。</p> <p>(略)</p> <p>○ これらのことから、中学校や大学、地域との連携を更に強化しながら、外部人材や<u>地域資源</u>を積極的に活用し、多様な分野の学びを提供するとともに、本県の専門学科では学べない特色ある科目や系列を超えた選択科目を設定するなど、社会の変化や生徒のニーズに対応した魅力ある教育課程を編成し、総合学科としての特色を明確にする必要がある。</p>	文言整理

頁	検討結果報告書案	頁	中間まとめ	備考
13	<p>(2) 定時制課程・通信制課程</p> <p>○ 今後とも、このような役割を果たしながら、<u>生徒の多様なニーズに対応するため、多様な選択科目を開設し、魅力ある教育課程を編成するなど、多様な学びを提供するとともに、関係機関等との連携や、スクールソーシャルワーカー等の専門スタッフによる支援体制の強化等、生徒一人一人へのきめ細かな指導の充実を図る必要がある。</u></p> <p>(略)</p> <p>○ 通信制課程においては、通学が困難な生徒がスクーリングを受けやすい環境を整備するとともに、後期入学や年度中途の転入学・編入学に対応した<u>体制を整備する必要がある。</u></p> <p>○ さらに、従来の全日制課程、定時制課程及び通信制課程の枠組みにとらわれず、<u>学習時間帯や教科・科目を柔軟に選択できる体制についても検討する必要がある。</u></p>	12	<p>(2) 定時制課程・通信制課程</p> <p>○ 今後とも、このような役割を果たしながら、<u>充実した教育環境を提供するため、多様な選択科目を開設し、魅力ある教育課程を編成するなど、多様な学びを提供するとともに、関係機関等との連携や、スクールソーシャルワーカー等の専門スタッフによる支援体制の強化等、生徒一人一人へのきめ細かな指導の充実を図る必要がある。</u></p> <p>(略)</p> <p>○ 通信制課程においては、通学が困難な生徒がスクーリングを受けやすい環境を整備するとともに、後期入学や年度中途の転入学・編入学に対応した<u>教育課程を編成する必要がある。</u></p> <p>○ さらに、従来の全日制課程、定時制課程及び通信制課程の枠組みにとらわれない<u>フレキシブルな学びを提供するなど、課程の在り方についても検討する必要がある。</u></p>	<p>文言整理</p> <p>意見照会結果を踏まえ修正</p> <p>地区部会の意見及び意見照会結果を踏まえ修正</p>
14	<p>3 学校・学科の魅力づくりに向けた教育制度</p> <p>○ 教育制度の充実による学校・学科の魅力づくりに向け、生徒の多様なニーズや他県の事例等を踏まえるとともに、生徒数の減少も見据えながら、中高一貫教育や全日制普通科単位制、総合選択制、コミュニティ・スクール¹⁷等の教育制度を活用した教育内容の充実や情報発信、導入校の拡充や見直しを含めた今後の在り方について検討する必要がある。</p> <p>○ また、時代や社会の変化に対応するため、<u>新たな教育制度の導入についても検討する必要がある。</u></p>	13	<p>3 学校・学科の魅力づくりに向けた教育制度</p> <p>○ 教育制度等の充実による学校・学科の魅力づくりに向け、生徒の多様なニーズや他県の事例等を踏まえるとともに、生徒数の減少も見据えながら、中高一貫教育や全日制普通科単位制、総合選択制、コミュニティ・スクール¹⁸等の教育制度を活用した教育内容の充実や情報発信、導入校の拡充や見直しを含めた今後の在り方について検討する必要がある。</p> <p>○ また、時代や社会の変化に対応するため、<u>新たな教育制度等の導入についても検討が必要である。</u></p>	<p>文言整理</p>
14	<p>¹⁷ コミュニティ・スクール：保護者や地域住民等が学校運営に参画する「学校運営協議会」を設置する学校であり、学校運営に地域の声を積極的に生かしながら特色ある学校づくりを進めていくことを目指すもの。<u>なお、文部科学省によると、高等学校における「地域」の捉え方として、学区や市町村などの行政区域で地域を限定するのではなく、各校の教育方針や教育活動の範囲に応じて柔軟に考えることが必要としている。</u></p>	13	<p>¹⁸ コミュニティ・スクール：保護者や地域住民等が学校運営に参画する「学校運営協議会」を設置する学校であり、学校運営に地域の声を積極的に生かしながら特色ある学校づくりを進めていくことを目指すもの。</p>	<p>地区部会の意見を踏まえ、注釈の説明を追加</p>
14	<p>(1) 中高一貫教育</p> <p>○ 併設型中高一貫教育では、中学校から高等学校までの6年間の計画的・継続的な指導やキャリア教育により、生徒の資質・能力を伸長しており、高い進学実績に結び付いている一方で、近年は受検者数の減少傾向や入学動機の多様化等の課題もある。</p> <p>○ このため、中高一貫教育校としての特色の明確化や魅力の発信、小学校等との連携等により、既導入校の更なる教育活動の充実や<u>小学生・保護者等の理解促進を図る必要がある。</u></p> <p>(略)</p> <p>○ 中等教育学校の新設や連携型中高一貫教育の導入については、他県における設置状況や本県におけるこれまでの導入事例等を検証した上で、併設型中高一貫教育校の<u>新設</u>への対応と併せて、検討する必要がある。</p>	13	<p>(1) 中高一貫教育</p> <p>○ 併設型中高一貫教育では、中学校から高等学校までの6年間の計画的・継続的な指導やキャリア教育により、生徒の資質・能力を伸長しており、高い進学実績に結び付いている一方で、近年の受検者数が<u>減少傾向にあること</u>や入学動機の多様化等の課題もある。</p> <p>○ このため、中高一貫教育校としての特色の明確化や魅力の発信、小学校等との連携等により、既導入校の更なる教育活動の充実や<u>児童・保護者等の理解促進を図る必要がある。</u></p> <p>(略)</p> <p>○ 中等教育学校の新設や連携型中高一貫教育の導入については、他県における設置状況や本県におけるこれまでの導入事例等を検証した上で、併設型中高一貫教育校の<u>拡充</u>への対応と併せて、検討する必要がある。</p>	<p>文言整理</p>

頁	検討結果報告書案	頁	中間まとめ	備考
第3	学校配置の方向性	第3	学校配置の方向性	
16	<p>1 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置の観点</p> <p>○ こどもの数が減少している中、一定の水準を満たした教育や、誰一人取り残さないきめ細かな教育を提供することで、<u>生徒のウェルビーイングの実現</u>を目指す必要がある。</p>	15	<p>1 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置の観点</p> <p>○ こどもの数が減少している中、<u>生徒に一定の水準を満たした教育や、誰一人取り残さないきめ細かな教育を提供することで、ウェルビーイングの実現</u>を目指す必要がある。</p>	文言整理
16	<p>(2) 充実した教育環境の整備</p> <p>○ これからの時代に求められる人財の育成に向け、高等学校に求められる教育を提供できるよう、充実した教育環境を整備する必要がある。</p> <p>○ <u>特別な教育的支援</u>を必要とする生徒や義務教育段階における不登校経験を有する生徒が増加していることを踏まえ、課程等にかかわらず、こうした様々な事情を抱えた生徒の多様な教育的ニーズへ対応する必要がある。</p> <p>○ 生徒数が減少していく中であっても、多様な他者との関わりを確保するため、<u>高等学校間・学科間の連携</u>や地域等との連携を更に推進し、高等学校教育の質の確保・向上を図る必要がある。</p>	15	<p>(2) 充実した教育環境の整備</p> <p>○ これからの時代に求められる人財の育成に向け、高等学校に求められる<u>教育活動</u>を提供できるよう、充実した教育環境を整備する必要がある。</p> <p>○ <u>特別な支援</u>を必要とする生徒や義務教育段階における不登校経験を有する生徒が増加していることを踏まえ、課程等にかかわらず、こうした様々な事情を抱えた生徒の多様な教育的ニーズへ対応する必要がある。</p> <p>○ 生徒数が減少していく中であっても、多様な他者との関わりを確保するため、<u>高等学校間連携</u>や地域等との連携を更に推進し、高等学校教育の質の確保・向上を図る必要がある。</p>	文言整理 地区部会の意見を踏まえ修正
17	<p>2 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置</p> <p>○ 「高等学校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の2つの観点を考慮し、<u>高等学校教育</u>を取り巻く環境の変化や教育的ニーズの多様化を見据えながら、生徒の可能性及び能力を最大限に伸長するための教育環境を提供することができる魅力ある高等学校づくりを進めるため、中・長期的な視点で計画的な学校配置に取り組む必要がある。</p>	16	<p>2 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置</p> <p>○ 「高等学校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の2つの観点を考慮し、<u>高等学校</u>を取り巻く環境の変化や教育的ニーズの多様化を見据えながら、生徒の可能性及び能力を最大限に伸長するための教育環境を提供することができる魅力ある高等学校づくりを進めるため、中・長期的な視点で計画的な学校配置に取り組む必要がある。</p>	文言整理
17	<p>(1) 全日制課程</p> <p>① 学校配置の考え方</p> <p>○ これまでは、学校規模の標準等を踏まえた学校配置が進められてきたが、今後は、6地区ごとに、中学校卒業予定者数の推移や産業動向、中学生のニーズ、地域の実情等を考慮し、<u>大学進学や就職等幅広い進路選択</u>に対応する高等学校、<u>先進的な研究</u>を実践する大学等を含む進学に対応する高等学校、<u>実践的な職業教育</u>に対応する高等学校等、様々な役割を担う高等学校を、生徒の通学環境に配慮しながら配置する必要がある。(略)</p>	16	<p>(1) 全日制課程</p> <p>① 学校配置の考え方</p> <p>○ これまでは、学校規模の標準等を踏まえた学校配置が進められてきたが、今後は、6地区ごとに、中学校卒業予定者数の推移や産業動向、中学生のニーズ、地域の実情等を考慮し、<u>大学進学や就職等より幅広い進路選択</u>に対応する高等学校、<u>選抜性の高い大学</u>等を含む進学に対応する高等学校、<u>実践的な職業教育</u>に対応する高等学校等、様々な役割を担う高等学校を、生徒の通学環境に配慮しながら配置する必要がある。(略)</p>	文言整理
18	<p>③ 小規模校の配置</p> <p>○ また、地域校制度については、生徒の通学環境に配慮して高等学校が配置されている一方で、募集停止の基準に該当した場合は、地域や中学生等への影響が懸念される。</p>	17	<p>③ 小規模校の配置</p> <p>○ また、地域校制度については、生徒の通学環境に配慮して高等学校が配置されている一方で、募集停止の基準に該当した場合は、<u>地域や中学生等への影響が懸念されるところである</u>。</p>	文言整理
19	<p>(2) 定時制課程・通信制課程</p> <p>○ <u>特別な教育的支援</u>を必要とする生徒や義務教育段階における不登校経験を有する生徒、外国につながる生徒等、様々な事情を抱えた生徒のほか、自分のペースで学べることに魅力を感じ、<u>定時制課程・通信制課程</u>を積極的に選択する生徒の入学者数が増加傾向にある。(略)</p>	18	<p>(2) 定時制課程・通信制課程</p> <p>○ <u>特別な支援</u>を必要とする生徒や義務教育段階における不登校経験を有する生徒、外国につながる生徒等、様々な事情を抱えた生徒のほか、自分のペースで学べることに魅力を感じ、<u>定時制課程・通信制課程</u>を積極的に選択する生徒の入学者数が増加傾向にある。(略)</p>	文言整理

頁	検討結果報告書案	頁	中間まとめ	備考
19	<p>3 学校配置と合わせて検討すべき事項</p> <p>○ 「魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置」の検討に当たっては、本県の産業動向等を踏まえるとともに、生徒の進路志望の多様化や高等学校教育を取り巻く環境の変化を見据えた再編の方法のほか、学級編制の在り方や生徒の通学手段の確保・通学支援等についても検討する必要がある。</p>	18	<p>3 学校配置と合わせて検討すべき事項</p> <p>○ 「魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置」の検討に当たっては、本県の産業動向等を踏まえるとともに、生徒の進路志望の多様化や高等学校を取り巻く環境の変化を見据えた再編の方法のほか、学級編制の在り方や生徒の通学手段の確保・通学支援等についても検討する必要がある。</p>	文言整理
19	<p>(1) 再編の方法等</p> <p>○ 教育環境の充実に向けた学校配置としては、学科の統合や異なる学科の高等学校の統合のほか、<u>社会の変化</u>を見据えた学びを提供できるような学科の設置、キャンパス制の導入、教育活動の充実に向けた中学校等との併設等が考えられる。</p> <p>○ 学科の統合や異なる学科の高等学校の統合に当たっては、これまで行ってきた統合の効果や課題を踏まえるとともに、地域の学校配置の状況も考慮しながら、各校・各学科の特色を生かしつつ新たな学びの創出が可能であるかといった観点でも検討する必要がある。</p>	18	<p>(1) 再編の方法等</p> <p>○ 教育環境の充実に向けた学校配置としては、学科の統合や異なる学科の高等学校の統合のほか、<u>新たな時代</u>を見据えた学びを提供できるような学科の設置、キャンパス制の導入、教育活動の充実に向けた中学校等との併設等が考えられる。</p> <p>○ 学科の統合や異なる学科の高等学校の統合に当たっては、これまで行ってきた統合の効果や課題を踏まえるとともに、地域の学校配置の状況も考慮しながら、各校・各学科の特色を活かしつつ新たな学びの創出が可能であるかといった観点でも検討する必要がある。</p>	<p>文言整理</p> <p>地区部会の意見を踏まえ修正</p>
20	<p>(2) 学級編制</p> <p>○ なお、少人数学級編制のほか、単位制の導入により、生徒の興味・関心や進路志望等に応じた選択科目を設定することで、少人数指導も可能となることを踏まえ、各校・各学科の特長に応じて、少人数学級編制の実施や単位制の導入を検討することも考えられる。</p>	19	<p>(2) 学級編制</p> <p>○ なお、少人数学級編制のほか、単位制の導入により、生徒の興味・関心や進路志望等に応じた選択科目を設定することで、少人数指導も可能となることも踏まえ、各校・各学科の特長に応じて、少人数学級編制の実施や単位制の導入を検討することも考えられる。</p>	文言整理
20	<p>(3) 通学手段の確保・通学支援</p> <p>○ このため、県と市町村や交通事業者等とが連携し、公共交通機関の増便やダイヤの改正、スクールバスの運行や寮の整備、通学費や下宿代の補助等、生徒の通学手段の確保・通学支援の充実に向けた対応を検討する必要がある。</p>	19	<p>(3) 通学手段の確保・通学支援</p> <p>○ このため、県と市町村や交通事業者等とが連携し、公共交通機関の増便やダイヤの改正、スクールバスの運行や寮の整備、通学費や下宿代等の補助等、生徒の通学手段の確保・通学支援の充実に向けた対応を検討する必要がある。</p>	文言整理
第4 地域等の理解と協力の下での魅力ある高等学校づくり		第4 地域等の理解と協力の下での魅力ある高等学校づくり		
21	<p>○ 「充実した教育環境の整備」と「各地域の実情への配慮」の2つの点に留意し、高等学校教育を推進するため、市町村等と緊密な連携を図るとともに、高等学校教育改革に関する情報を広く提供し、多くの意見を伺いながら、県民の理解と協力の下、実施計画が策定され、現在、魅力ある高等学校づくりに向けた取組が進められている。</p> <p>○ <u>今後も魅力ある高等学校づくりに向け、様々な機会を捉えて地域等の意見を伺いながら実施計画を策定する必要がある。</u></p> <p>○ <u>具体的には、市町村やP T A関係者等と意見交換する場を設定し、あらかじめ地区の具体的な学校配置等について意見を伺うとともに、実施計画等について、広く県民へ説明し意見を伺う場を設定したり、パブリック・コメントを実施したりする必要がある。</u></p> <p>○ また、統合を行う場合には、統合の対象となる高等学校の関係者等により、統合校の教育活動の充実に向けた検討を行う必要がある。</p>	20	<p>○ 「充実した教育環境の整備」と「各地域の実情への配慮」の2つの点に留意し、高等学校教育を推進するため、市町村等と緊密な連携を図るとともに、高等学校教育改革に関する情報を広く提供し、多くの意見を伺いながら、県民の理解と協力の下、<u>基本方針や実施計画</u>が策定され、現在、魅力ある高等学校づくりに向け取組が進められている。</p> <p>○ <u>今後も魅力ある高等学校づくりに向け、市町村やP T A関係者等と意見交換する場を設定し、あらかじめ地区の具体的な学校配置等について意見を伺いながら、実施計画を策定する必要がある。</u></p> <p>○ <u>また、実施計画の策定過程においては、広く県民へ説明するとともに意見を伺う場を設定やパブリック・コメントの実施等、様々な機会を捉えて地域等の意見を伺いながら進める必要がある。</u></p> <p>○ さらに、統合を行う場合には、統合の対象となる高等学校の関係者等により、統合校の教育活動の充実に向けた検討を行う必要がある。</p>	<p>文言整理</p> <p>文章の構成を変更</p>
22～ 23	おわりに【本文省略】			追加